

第 4 章

調査研究

1 研究の概要

(1) 研究主題

キャリア発達を促すためのカリキュラム・マネジメント
～新しい職業学科として社会に開かれた教育課程の構築を目指して～

(2) 設定理由

平成 26 年度の調査研究において、進路指導部が青年学級や同窓会一泊旅行などを利用して卒業生の実態や生活の様子の聞き取り調査を行った。その調査結果を基に就労先での就労状況から、本校での学習が卒業後の生活にどのように関わっているかをまとめ、調査研究として報告して教育課程の編成に寄与した。

そして、昨年度は「今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム」「今金町障がい者雇用事業者連絡会」に進路指導部が参加して、学校評議員や雇用主の方々の意見から、卒業生の実態や問題を把握し、本校の教育活動に必要な内容や教育課程上の課題を進路指導部内でまとめた。

その際、学校評議員や雇用主の方々が卒業生のことを生活の部分も含めて親身に考えてくださっていることを知り、改めて本校教育への期待の大きさを感じた。職場の様子で気になることがあればグループホームの支援員や本校に連絡するなど関係機関の連携が行き届いていることが改めて分かった。

これまで、外部からの情報や聞き取り、連携の中から得られた内容について調査研究を重ねてきた。しかし、外部で得た情報を本校に持ち帰り報告を行っていても、外部での取り組みが見えていなかったり、外部ではどういったことが求められていたりするかなど、本校での取り組みと外部とでは乖離する部分があるのではないかと感じていた。生徒の実態の変化や、障がいの多様化が進む中で「今までどおり」や「現状維持」ではなく、学校経営計画の”経営の重点”にもある「前例踏襲を前提とせず、学習指導要領を踏まえた後期中等教育の観点から、業務の精選・開発を行いながら、地域の専門家・地域資源の活用や地域との交流、交流及び共同学習を推進し、地域に貢献できる人材を育成する社会に開かれた教育課程経営を行う」をまずは校内で具現化する必要があるのではないかと考えた。

そこで、教員の就労に対する知識や認識の向上、意識改革を目指すべく、学校内でできることがないかを進路指導部内で話し合い、まずはできるところから着手していくことで教職員の校内での進路に対する認識を変えていくことができるのではないかと考えた。

進路指導部が外部と連携し卒業生の巡回や報告、事業所や企業からの情報提供等については、昨年度までと同様に継続しながら、校内にて進路指導に関する情報の整備を進め、生徒の進路に関する知識、理解、関心を高めることで、就労先から求められる人物の育成に直結し、さらには障がいに対する専門性の向上にもつながるのではないかと考えた。また、このような取り組みを継続、定着させていくことで、社会に開かれた教育課程を実現すべく、キャリア教育の視点を基礎として、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教科等横断的な視点での配列や PDCA サイクルの確立、人的・物的資源などの効果的な活用など、様々な角度からカリキュラム・マネジメントに取り組むことにつながり、生徒のキャリア発達を効果的に促すことができるのではないかと考えた。

(3) 研究の内容と方法

進路に関する研修会や研究協議会、会議などには進路指導部が参加し、資料の回覧や校内進路研修会などを通して情報提供していく。

校内の進路指導に関する情報提供の仕方の工夫については、「できるところから着手する」「取り組んでいることを整備する」をテーマに掲げ、職員それぞれが負担を感じず気が付いたら出来上がっていたとなるような取り組みを心掛ける。

具体的な内容については、①進路指導部とホームルーム担任との定期的な打ち合わせ、②進路指導の手引きを作成し、誰もが進路指導に自主的に携わることのできる環境整備、③掲示板の新設・整備・情報発信、④図書室に進路コーナーを新設し、職員のみならず生徒、保護者も自らが情報を得ようとする環境・土台作り、道南にある事業所（福祉サービス事業所）の情報が網羅されたパンフレット（冊子）の作成・整備、⑤生徒の実習に関する準備、振り返りの手順の整備（ホームルーム担任、生単と連携）、⑥掲示物の充実（卒業生からのアドバイス、困り感、役立っていること）などとし、進路指導部内で役割分担しながら進める。

（４）推進日程

- ４月 ６日 全体研修① 振り返り、方向性
- ４月 26日 第１回研究推進委員会：今年度の研修内容確認
- ６月 １日 第２回研究推進委員会：今年度の研修内容確認
- ６月 ８日 全体研修②
- ７月 20日 第３回研究推進委員会：進捗状況の確認
- ９月 14日 第４回研究推進委員会：進捗状況の確認
- 10月 19日 全体研修③（中間報告）
- 12月 ７日 第５回研究推進委員会：進捗状況の確認
- １月 18日 第６回研究推進委員会：進捗状況の確認、次年度の方向性検討
- ２月 １日 第７回研究推進委員会：進捗状況の確認、次年度の方向性確認
- ２月 ８日 全体研修④（最終報告）

２ 研究の実際

（１）進路指導部とホームルーム担任による定期的な打ち合わせ

１学年ホームルーム担任と、２学年ホームルーム担任合同で進路指導部との打ち合わせ（以下担進会議）を行うことで、１学年担任にも２学年に向けてどのような準備が必要かを具体的に知ってもらう機会を設けた。

第１回担進会議（７月 25 日） 保護者懇談会においてホームルーム担任から保護者へ話す内容の共通理解を図る。具体的には、１学年については家庭訪問の際に現段階での進路の方向性について確認した。２学年についてはホームルーム懇談等で夏季休業中の職場見学や２学期からの個別実習などについて保護者へ確認し、２学年中に進路の方向性を見極めるよう周知した。

第２回担進会議（10月 30 日） ２学年の生徒の現状と個別実習の課題と成果について確認する。進路指導が計画より遅れがちであるということを実感しているホームルーム担任がほとんどであった。学校祭特別日課に入り、目標や目的を見失いがちな傾向にあることから、日常から将来の進路と関連付ける指導や行事と進路を関連付けることを心掛けるよう周知した。

（２）進路指導の手引きの作成

本校の進路指導部の進め方について統一した取り組みができるよう、他校の進路指導部からの情報も得ながら「進路指導の手引き」を作成した（資料１）。ホームルーム担任への配布、進路指導部の掲示板への掲示、共有フォルダ（PC ネットワークの New_IMAYOU）の各学年、進路指導部の各学年のフォルダヘデータの保存などを行い、全職員の目に触れやすくなるよう工夫を図った。

～目次～

I	本校における進路指導	P 1
1	進路指導の目標	
2	進路指導の方針	
3	進路指導の学年目標	
II	進路が決定するまで	P 3
III	進路指導の内容と方法	P 5
	< 1 学年 >	P 6
	< 2 学年 >	P 8
	< 3 学年 >	P11
IV	関係機関および制度等について	P15
1	障害者自立支援法について	P16
2	就労について	P24
3	就労に関する諸機関	P28
4	進学について	P30
5	福祉行政関係について	P34
6	療育手帳について	P36
7	各種手当、障害基礎年金について	P38
8	本校における卒後支援について	P40
9	北海道今金高等養護学校 進路指導振興会会則	P44
10	北海道今金高等養護学校 同窓会会則	P46
V	資料	P47
1	障害福祉サービス・関係機関について	P48
2	障害福祉サービス事業所ガイド	P51

※全てのデータに関しては、本校ホームページ及び研究紀要 CD-ROM にて閲覧できます。

(3) 進路指導部の掲示板の新設

職員室内の空いているスペースを利用し、進路指導に関する情報の発信を積極的に行った（資料2）。巡回記録については、今までデータでの書き込みのみで教員への情報提供などは、関係者のみになることが多かったので、掲示して様々な教員が目にする機会が増えるようにした。結果として、今まで取り組んできたことの成果や指導の参考になるのではないかと考えた。また、研修会などの資料や進路に関する情報の発信を日頃から心掛け、進路指導部に限らず興味のある研修会の参加や進路先となる企業や事業所の見学などにつながるのではないかと考えた。

資料2



(4) 図書室へ進路コーナーの新設

教員や生徒が進路についての情報を得ようとしたとき、校内にある、各職場のパフレットを見ることしかできずにいた。また、道南圏を中心に様々な事業所があるが、詳細については普段なかなか知る機会が少なく、これまでは進路外勤の教員が必要に応じて説明するという形式が多かった。本人に合った進路について理解を深めようとしても、なかなか深められないのが現状であった。そこで、各事業所の情報が網羅された冊子を進路指導部が作成することで、教員のみならず生徒、保護者も自らが情報を得ようとする環境や土台作りができるのではないかと考えた（資料3-1、3-2、3-3）。

具体的な中身については、各事業所の概要をまとめたパワーポイント（以下 PPT）資料を活用した。このことは道南の特別支援学校の進路指導担当者が進路指導連絡協議会などで集まった際、話題として挙げられていた。また、事業所から保護者や職員向けの説明会「進路セミナー」を開催できないかという要請を受け、昨年度様々な事業所に協力をいただき開催に至った。その中で、ほとんどの事業所が PPT を使って説明をしていた。そこで、進路セミナー担当者へ PPT のデータをいただけないか交渉をしたところ、担当者から全事業所へ問い合わせをいただき、その結果、全事業所の PPT をデータでいただくことができた。各事業所の特徴の書かれた PPT をプリントアウトし、冊子の内容の一部とした（資料3-4、3-5）。さらに、各事業所を知る上で必要な情報として、「工賃」、「仕事内容」、「勤務時間」、「理念」などが挙げられるが、それらを統一した書式の中に盛り込むことで、事業所への理解が深まるのではないかと考えた。書式については、他校の進路指導部に協力をお願いし、フォーマットのデータを参考資料としていただいた。それを、本校のものにアレンジし、様式が完成した。PPT 資料と様式を1冊の冊子にまとめ図書室に置かせていただき、誰でも進路の情報を得られよう環境整備した。

資料3-1



資料3-2



資料3-3

サービス種別		【 法人名 特定非営利活動法人 ○○○○○○ 】		事業所番号	
就労移行支援事業所		施設名 ○○○○		011140000	
〒 040-0000		住所： 北海道函館市○○○町○丁目○-○			
TEL: 0138-00-0000		FAX: 0138-00-0000		e-mailアドレス: abcde-000@000.jp	
法人代表者		理事長 函館鮎八郎		指定年月日 平成25年12月1日	
施設長		専務理事 北斗桜回郎		利用者数 定員20名	
見学担当		スタッフ 大野神童		本校卒業生利用者数 1名	
職員数 8名		施設送迎		有・無 有	
設立年月 平成25年3月26日		食事提供		朝 なし 昼 あり 夜 なし	
見学について		○・否 事前に連絡※基本的にはいつでも可		パンフレット 有	
開始時刻 9時00分		終了時刻 17時00分		定休日 土・日・祝祭日	
活動内容		施設内…昆布などの珍味の計量、汚れ落とし、袋詰め 施設外…○○○○○○○ (○○の仕分け) ○○○○-○○○○ (○○○の洗車) ○○○-○○○ (○○○の洗浄) ○○○○ (荷物の仕分け) ○○○○○○○○ (清掃業務) ※工賃時給: 300円以上			
概要		施設の特徴 多数の民間企業との提携により一般就労への支援を行っている。就職から職場定着まで、自立生活へ向けた様々なメニューを幅広く用意している。就労に必要な求職活動に関する支援、適性に応じた職場の開拓、就職後における職場への定着のための相談、その他様々なニーズに応じた支援を行っている。企業の下請けや軽作業など委託事業からの仕事をを行い、働いた分の工賃が支払われる。			
備考		アクセス ○○道路の○○○-から○○○方面へ上り、○○○○○を右折、閑静な住宅街の一角			
		記入月日 平成 29 年 10 月 24 日			

活動日と活動時間

- ・ 月曜から金曜
- ・ 開所時間 9:30～16:00
(作業時間 9:30～12:00 13:00～15:00)
- ・ 昼休み 12:00～13:00
- ・ 15:00～休憩・清掃・ミーティング

- ・ 土・日・祝日はお休み
- ・ お盆休み・年末年始に1週間程度の休暇

昼食

- ・ 提供していません
- ・ 各自持参しています

送迎

- ・ 7名乗り送迎車2台
- ・ 公共交通機関の利用推奨

(5) 個別実習前後の学習の整備

本校では、各学年で現場実習を設定している。働く経験をする中で卒業後の進路先を選択していくことになるが、より具体的な進路先をイメージできるよう、個別実習を2年次は8月から3月、3年次の1学期中までに実施している。個別実習の前後の学習については、学年やホームルームが主導で行っていた。内容についてある程度足並みをそろえるために2学年の担任団の意向をくみ取りつつ、事前訪問に向けての様式、事後学習の振り返り用の様式の提示

を行った（資料４－１、４－２）。生徒の実習へ対する意欲や心構え、普段の学校生活や自分の進路に向けて意識付けられるのではないかと考えた。

資料４－１

個別実習事前訪問について

訪問日	
時間	
学校出発	
バス	行き → 帰り →
質問内容	

<注意事項>

- ・身だしなみを整えること
- ・挨拶、返事を自分からすること
- ・話を聞く姿勢を考えて、実習先の方と関わること
- ・質問するときには、説明していただいたこと以外のことを聞くこと。

個別実習の振り返り

名前 _____

○ 日間の実習を通して、評価しなさい。

できた ◎		大体できた ○	あまりできなかった △	全くできなかった ×	評価
マナー	1	時間を意識した行動・仕事をする事ができた。			
	2	身だしなみを整えた状態で仕事をする事ができた。			
	3	自分から準備や片付けを正しく行う事ができた。			
コミュニケーション	4	状況に応じた挨拶・返事をする事ができた。			
	5	必要に応じた報告・連絡・相談をして仕事を進める事ができた。			
	6	状況に応じた表情や態度で仕事を行う事ができた。 (話の聞き方、返事の仕方など)			
自己内省	7	見通しをもち、仕事をする事ができた。			
	8	指示や注意を素直な姿勢で聞き、行動に移す事ができた。			
応用力	9	指示を正しく理解し、確実に仕事を進める事ができた。			
	10	周りの人の様子や安全などに気を配り、行動する事ができた。			
自己設定目標					

○全体を通して成長したことと課題を箇条書きで書きなさい。(具体的に)

成長したこと	課題

○改めて、卒業後の就労先の希望に○をつけ、理由を書きなさい。(月 日現在)

就労形態	一般就労 就労移行支援 就労継続支援A型 就労継続支援B型
職業種 または企業名	
地域	自宅周辺 その他 ()
理由	

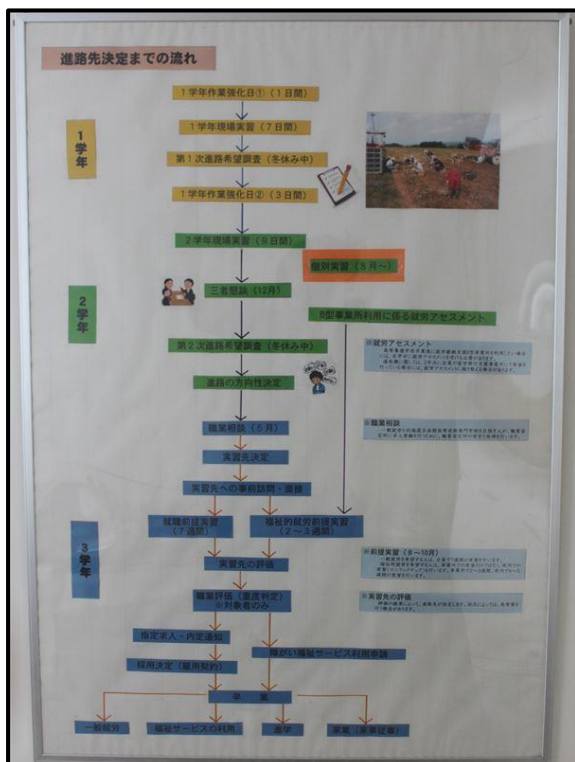
(6) 廊下などの掲示物の整備

本校の校舎から寄宿舎へとつながっている廊下に進路コーナーを設けさせていただいているが、しばらく更新されていない状態が続いていたため、中身について改めて見直し、内容を整理し、掲示物を刷新した(資料5-1～5-4)。日常から進路に関する情報を目にすることで、生徒も教員も、早い段階から見通しをもって取り組むことにつながるのではないかと考えた。

資料5-1



資料5-2



資料5-3





3 成果と課題

(1) 進路指導部とホームルーム担任による定期的な打ち合わせ

2つの学年のホームルーム担任を集め、担進会議を行った。そのメリットは2点あり、1つ目は他のホームルームの取り組みや進路指導の進捗が分かることが考えられる。二つ目に次年度への見通しをもちやすくなることや、準備するための心づもりがしやすいことが考えられる。

この取り組みを継続して行うことで、学校としてのスタンダード（おさえ）を築き上げることと、進路指導部としても人が変わっても時期に応じた取り組みを継承していくことができるのではないかと考える。

課題として、地域性を考慮した本校での取り組みに馴染みのない転入者や卒業生を出したことのない教員に、早い段階から本校での進路指導の進め方について共通認識した上で取り組んでいくための基準作りが早急に必要と考える。

(2) 進路指導の手引きの作成

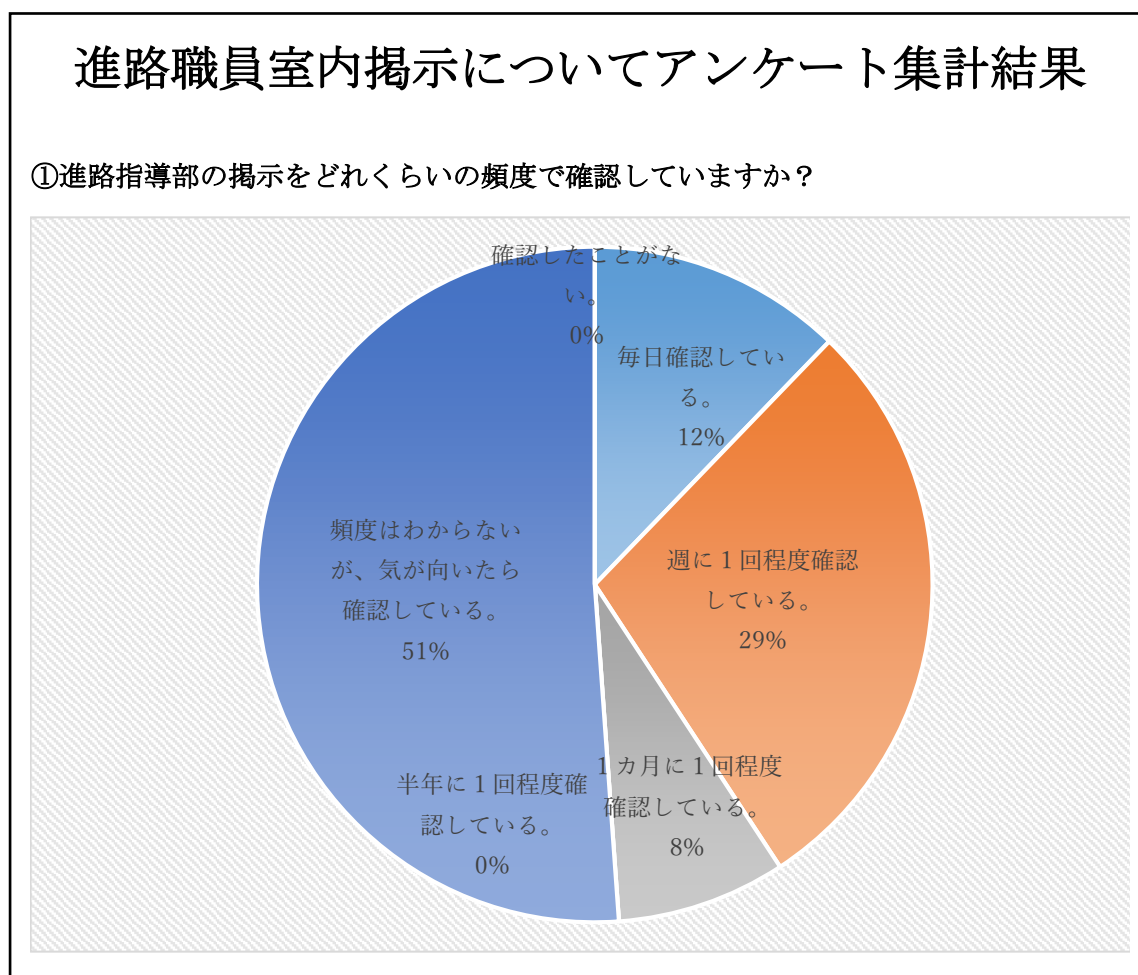
進路の手引きは年度途中で完成したこともあり、活用の定着には至っていない。しかし、進路に関する問い合わせが教員からあったときに、「手引きに記載されているので確認してください」というやりとりをした場面が数回あり、その後改めて問い合わせがなかったことから、そういった場面では一定の成果があったのではないかと考える。

次年度以降は年度当初に提示し、全教員が活用できるような環境作りを心掛けることと、活用しやすい内容に改訂していきたいと考えている。また、保護者向けの手引きの作成にも着手していくことによって、本校での進路指導の進め方を保護者も主体的に携われるようにしていきたい。さらに、生徒用の手引きについては、教科等横断的な視点から進路指導部が生活単元学習などの単元構成や計画などにも携わり、「進路指導の手引き」とリンクさせながら分かりやすい内容に変更をかけるなど、より良い活用方法を探っていく。

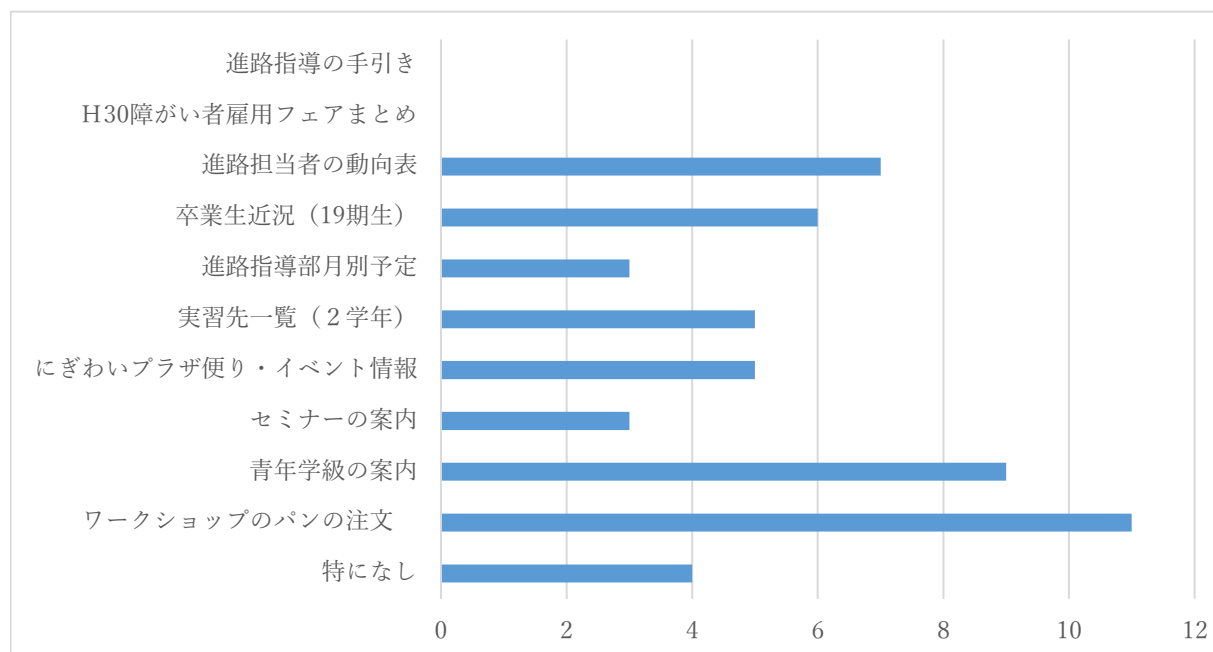
(3) 進路指導部の掲示板の新設

職員にアンケートをとり、掲示板の新設について意見をいただいた（資料6－1、6－2、6－3、6－4）。

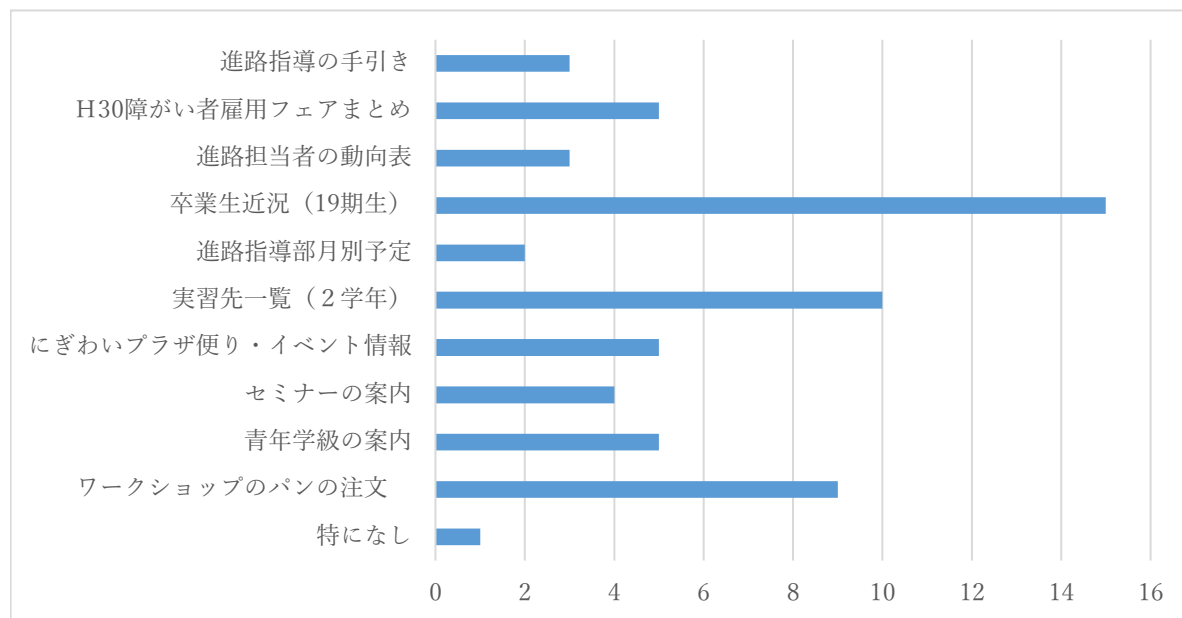
資料6－1



②進路指導部の掲示でよく確認する掲示物を選んでください。(複数回答可)



③進路指導部の掲示でたまに確認する掲示物を選んでください。(複数回答可)



① 進路指導部の職員室内掲示で要望があれば自由にお書きください

- ・内容が更新されたときに「New」などのポップがあったら分かりやすいかなと思います。
- ・卒業生のことでもう少し全体に周知があっても良いかと思います。
- ・パンの注文を教頭の後ろの黒板に移れば忘れないかと思いますが無理ですね。今の場所だとなかなか見ないことが多くて・・・。

② 進路指導部の職員室内掲示で感想があれば自由にお書きください。

- ・一か所にまとめられているので見やすいです。
- ・見やすくとてもよいと思います。
- ・今までに比べ見える形となったため回覧などに比べると分かりやすくなったと思います。
- ・担当者の動向が分かりやすくなり良かったです。
- ・たまにしか見ないのですが、掲示してあると便利で見やすいです。

アンケート結果を見てみると、概ね掲示板を気にして見ているという声があることが分かった。その中でも、全職員が関係する内容のものが閲覧されている傾向にあることが分かった。特に、卒業生の動向については、在学中の学校での指導がどのように生かされ、どのような課題となって現れているのかが最も現れやすいと考えるので、関心度が高くなると推測される。

研修会や協議会の資料も新たな試みとして掲示したが、資料を手にとって見ている教員が複数いた。進路に関する DVD があることも発信していたところ、実際に DVD を授業で活用されることもあった。反面、掲示する物が増えてきたことによる煩雑さが否めず、情報の精査が必要であった。また、更新する担当者が固定化されており、関係者で協力して情報を発信していこうとする意識は希薄であったといわざるを得ない。

今後については、要望なども反映させながら情報を精査し、関係者で役割分担しながら誰しもが活用しやすい掲示板作りにつなげていきたい。

(4) 図書室へ進路コーナーの新設

ホームルーム担任が進路担当者へ事業所について確認をする前に、冊子を見て情報を得て、そこに盛り込まれていない部分に関して確認してくる場面があり、一つの大きな成果として現れた。ホームルーム担任が、自らの言葉で生徒へ説明し、進路への理解を深めている場面が随所に見られたことは、「専門性の向上」という意味においても大きな成果であると考え。また、生徒へも冊子を活用して説明する場面も作ることで、生徒が休み時間などに自ら冊子を開いて内容を確認している様子も見られた。

今後は、更なる活用ができるよう、グループホームの空き状況の更新、定員などの情報も盛り込んでいきたい。また、今後も継続的に行っていくことで考えている進路セミナーだが、各事業所からの情報の統一化が図れるよう、資料 3－3 を各事業所に記入していただくことで進めていきたい。内容については、「平均工賃」、「ステップアップに向けたプログラム」、「独自の特徴」など、生徒や保護者が知りたいと思われる項目も関係者で相談しながら増やしていきたい。さらに、進路セミナーに参加された函館近郊の事業所以外の情報も収集し、胆振地区、後志地区、桧山地区などの卒業生が所属する事業所についても冊子を作成していきたい。

（５）個別実習前後の学習の整備

取り組みに関する成果や課題について、ホームルーム担任から感想をいただいた。

感想 1

事前学習では、実習日誌を使用し目標立てを行った。日常生活の課題から、適切な目標を立てられるように面談をし、目標を記入させた。日常生活の中で、課題を理解し改善しようとしている生徒は、目標もスムーズに立てることができた。しかし、課題を指摘されていても、受け入れられず改善のための行動につながらない生徒は、目標立てで時間がかかった。日頃から、課題を理解し、改善のための行動ができるようなアプローチの仕方を工夫する必要があると感じた。

事後学習では、実習後すぐに振り返りシートを記入させた。振り返りシートと実習日誌を基に面談を行ったが、良かった点と課題点を整理することができた。振り返りシートや実習日誌は、自己評価が多いため実習先からいただいた評価表と比較すると、評価に差がある生徒が多かった。しかし、振り返りシート、実習日誌、評価表を見比べたときに、項目が一致していないため、自己評価と実習先からの評価を比較しにくく、関連させることが苦手な生徒や理解力が低い生徒は、評価の差を理解することが難しかった。振り返りシートと実習日誌の評価項目を実習先へ渡す評価項目と一致するように作成することで、より生徒自身が良い点や課題点を理解して、その後の活動に生かしていけるのではないだろうか。

感想 2

事前学習において自己評価の高い生徒が、実習先への事前訪問で自ら相手に話しかけることができると自信をもっていた。しかし、実際の訪問では緊張で挨拶ができなかったり必要なことを確認できなかったり教師を頼ったり、自ら話すことがほとんどできなかった。また望ましい姿勢や態度も保つことができていなかった。その後の振り返りで、自らの自己評価が高かったことや普段の生活がいかに大切であるかということを感じ取ることができた。

その後の学校生活では、教師から言われる前に自ら行動を改めることにつながった。言葉遣いや話し方、姿勢の保持を意識するようになるなど、普段の生活態度にも改善の効果が現れるようになった。

同生徒は、複数回個別実習を行っているが、一度目の事前訪問の振り返りを踏まえた上で、二度目の事前訪問では、ワークシートを使用して質問する項目を書き出し、準備を充分に行うことができた。その結果、挨拶や自己紹介、質問や返答も覇気のある様子であり、会話の中で笑顔が見られるなど気持ちの余裕が表情から感じ取れた。このことから、事前学習での評価表作成や事後学習における振り返りで生徒自らを客観的に見直すことができ、ワークシートを準備することで気持ちの余裕にもつながることが分かった。

感想からも、外部資源を効果的に活用した実習を実施するに当たり、事前事後学習の内容を整えたことは、PDCA サイクルを生徒自らが実践でき、生徒自らの目標設定や自己評価の必要性に気付くことへつなげられたと考えている。つまり、実習においてカリキュラム・マネジメントの考え方は効果的であることが実証された。

今後は、これらの取り組みを継続し改善しながら、意味のあるより良い活動になるよう評価項目の統一化や他教科等への具体的・意図的な配列をしていき、新学習指導要領に対応できる行事や学習内容にしていきたい。

(6) 廊下などの掲示物の整備

掲示物の内容について刷新した。色分けをしたり写真を多く配置したりすることで見やすくすることを心掛けた。写真については、在校生にとっては卒業して間もない先輩の写真があることで興味をもつことができ、足を止めて見る生徒が増えた。また、教員も掲示物に目を向けている人が増えた。掲示する内容については、情報が錯綜しないようにするために「進路指導の手引き」に記載されている内容から文言を抜き出した。そうすることで、進路に関する用語の意味について同じ説明ができるのではないかと考えた。しかし、「進路指導の手引き」の存在が十分に認知されていないため、成果として現れるまでにはつなげられなかった。さらに、どうしても活字が多くなってしまうため、生徒が言葉の意味が分からなかったり、イメージがしにくかったりすることは否めなかった。

これらのことを受けて、可及的速やかに生徒用の「進路指導の手引き」を作成することの必要性に気付くことができた。盛り込むべき内容としては、専門用語の解説を付けることや、写真やイラストを多めに配置するなど、見やすさや分かりやすさに焦点を当てて作成するなどの工夫が必要であると考えた。

今回、掲示物作成を役割分担したことで、進路の進め方について理解を深められた人が増えたと捉えている。小さな積み重ねを大切に、進路指導についての専門性の向上につなげられるような工夫を図っていきたい。

4 まとめ

研究主題のサブタイトルにある、「新しい職業学科として社会に開かれた教育課程の構築」を行っていくために、教員の就労に対する知識や認識の向上や意識改革、就労先から求められる人物育成や障がいに対する専門性の向上を目指し、1年間学校内でできることに取り組んできた。

教員が進路に関する専門的な知識を得るためには、校内にて進路指導に関する情報を整備することが必要と考えられてきたが、なかなか形として残すことができずにいた。学習指導要領が改訂されるタイミングも重なり、現在取り組んでいることを整えることに焦点を当て、やれることとやっていることから整備することを研究主題と絡めながら調査研究を進めてきた。

具体的な取り組みとして、⑤個別実習の事前事後学習の整備については、教科等横断的な視点とPDCAサイクルの確立を目指して取り組んだことで、個別実習において欠かせないツールになった。この考え方は、他の教科別の指導や領域・教科を合わせた指導の中でも活用できることから、各教科や形態と進路指導が融合できる部分を洗い出し、次年度整備することで進めていきたい。

①担進会議、②進路指導の手引き作成、③職員室内掲示板の充実、④進路コーナーの新設、⑥廊下掲示板の刷新については、各項の取り組みからも一定の成果が得られた。これらの取り組みについては、最新の情報を盛り込みながら、継続していくことこそが、生徒と教員の進路に関する知識、理解、関心を高めること、就労先から求められる人物の育成、さらには障がいに対する専門性の向上などにつながるものと考えている。

今後も課題点を具体的に改善し、成果の部分は深化を続けながら、北海道今金高等養護学校の進路指導のスタンダード（おさえ）作りにつなげていきたい。

次に、本研究を通して、生徒の将来の進路を決める時期に、本人に合った進路を選択し決定していくためには、いかに平素の授業や日常の何気ない振る舞いが卒業後の生活に結びついているかを実感させることの大切さについて気付くことができた。さらには、学習活動の中でキャリア発達を促すための要素を意図的に設定することがいかに大切かについても改めて気付くことができたため、具体的に述べていきたい。

進路指導やキャリア教育に関連付けやすい取り組みの一つに、「現場実習」が挙げられる。本校の各学年（1、2 学年）で教育課程上設定されている現場実習については、1 学年は 7 日間、2 学年は 9 日間の期間、近隣市町村の企業等で実習を行っている。近隣市町村での実習の受け入れなどについては、開校時から実施していることや諸先輩方の活躍などもあり、非常に理解を示していただいております、多岐にわたる業務を経験できる土壌ができています。生徒達は、実際に働く経験をする中で、卒業生などの進路選択、決定までの流れを見て、「就労」へのイメージが付けやすくなる。実習の受け入れをしていただいている企業等の地域資源を効果的に活用することは、学校での取り組みの成果を発揮するだけではなく、学校での取り組みが卒業後の就労生活につながっているということを実感できる場にもつながっている。実習形態としては、複数名でのグループ実習や引率実習、または一人で行う単独実習となっている。

「就労」へのイメージが付いた中で、次に必要になってくることは、「生活」する場所をイメージすることと考える。各学年で教育課程上設定されている現場実習については、基本的に寄宿舎からの通勤になることから、寄宿舎職員のサポートや入舎生がいることでの安心感を生徒自身がもちやすい。

実際の就労生活を送るに当たり、職場では同級生などの仲間や引率者がいない中で働くことになり、住む場所は自宅かグループホームが中心となることから、単独で働く経験を積むことや卒業後に考えている生活場所からの通勤を経験することは、就労生活を具体的にイメージする上でとても重要な取り組みと考える。

その意味からも、卒業後の就労生活に近い形を体験できる「個別実習」は、生徒の具体的な進路、つまりは自分が勤めるであろう就労先をイメージする上で、必要な活動と考える。卒業後の進路先がある程度絞られてくことで、生徒自身の今やるべきことが明確になり、指導者側も幅広いオールマイティーな指導からポイントを絞った指導に移行することができ、生徒も指導者もやるべきことが精査されることにつながると考えている。

ポイントを絞った取り組みをすることで、働くイメージが具体化しやすくなり、その中でイメージに近い形態での個別実習を実施することで生徒自身の「強み」や「課題」を明確にでき、それを日常の指導に反映させることで、平素の授業や日常の何気ない振る舞いが、卒業後の生活に結び付いていることに気付けると考える。

上記のように、早い時期から段階的なキャリア教育を進めていくことで教職員は、「生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容などを教科等横断的な視点で組み立てる」ことができる。さらに、「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと」につながり、「教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して指導の効率化を図る」ことができ、進路先をイメージすることによって生徒も指導者も授業の構築の幅を広げられるものと考え。また、進路選択を生徒自身で主体的に携わるきっかけにもなり、具体的なことを知るためには自ら調べたり対話を積み重ねながら情報を得たりする必要がある、それが深い学びにつながる。

その中で我々教員は、何ができるようになるかを明確化するために、教科等横断的な視点から目標達成に必要な内容を組織的に配列し改善し続けるための PDCA サイクルを確立する必要がある。さらに、地域資源を効果的に活用した取り組みが必要となり、それがまさにカリキュラム・マネジメントの考え方に直結すると考える。そのため、地域資源を使つての個別実習の意義は大きい。さらに PDCA サイクルを確立するために事前事後学習は重要な役割を担い、目標達成に向けた取り組みを整理することは大きな意味を持っている。

本校のグランドデザインには、キャリア教育目標を掲げ、働くことの意義を理解し、具体的なイメージをもち、自分らしい生活の在り方を自己決定することが盛り込まれている。目標達成のために、「協同学習の充実」、「つぶやき week の実施」、「町内会と連携した行事の実施」、「観点別学習状況の評価」、「シラバスの作成と充実」、「学科共通作業の充実」、「模擬株式会社の設立」、「ふ

るさと納税返礼品の提供」など、様々な取り組みを行っているが、その中で生徒の将来の進路先を決定していくことが最も重要であり、その意味でも進路指導が担う役割は非常に大きいと捉えている。

上記のように、カリキュラム・マネジメントを進めるに当たり、「学校全体として資質・能力の育成を目指すためには、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るためのカリキュラム・マネジメントに努める」という考え方は、本校の教育活動で以前より具体的に取り組んでいることである。現在取り組んでいることを整備し活用しやすくするために改良したものが、今回の調査研究につながり、一つの形にすることができた。

今後も、今金高等養護学校で学んだことが社会で生かされるよう、企業などから求められる就労に必要な資質を本校の指導内容にフィードバックするとともに生徒や保護者への情報発信にも努め、求められる人物の育成につなげられるように教員の専門性の向上、知識、認識の深化につながるキャリア教育を探求し続けていきたい。